2026 年 11 月 26 日

AGC株式会社
東急不動産株式会社
株式会社リファインバースグループ

国内初、内装ガラスの水平リサイクルモデルを構築

－板ガラス製造原料への再資源化を実現、フィルム付きガラスの継続的な循環利用へ－

AGC 株式会社（本社：東京都千代田区、以下、AGC）、東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区、以下、東急不動産）および株式会社リファインバースグループ（本社：東京都千代田区、以下、リファインバース）は、オフィスビルの改修工事等で廃棄された内装ガラス[*1]を回収し、建築用板ガラスの製造原料として再利用する、国内初[*2]の水平リサイクル[*3]モデルを構築しました。現在、回収した内装ガラスはすでに板ガラス製造用カレットとして再資源化しており、2026 年 12 月から当該カレットを用いた板ガラス製造を開始することで、水平リサイクルの取り組みを本格化します。

内装ガラスの水平リサイクルフロー



オフィスの執務室や会議室の間仕切りなどに使用される内装ガラスは、改修やテナント入れ替え工事に伴って廃棄されます。こうした内装ガラスには、飛散防止、装飾、目隠しなどを目的としたフィルム付きガラスが多く含まれます。そのため、水平リサイクルを実現するには、フィルムや異物を適切に除去し板ガラスの原料として再資源化する仕組みと、内装ガラスを効率的に回収・運搬する仕組みの双方を構築する必要がありました。

そこで 3 社は、それぞれの知見を活かし、これまで AGC が窓ガラスを中心に進めてきた水平リサイクルを、オフィスビルの改修工事等で廃棄された内装ガラスへ広げる取り組みを進めました。

東急不動産が運営する「渋谷サクラステージ」および「一番町東急ビル」の原状回復工事で廃棄された内装ガラスを分別・排出。リファインバースは既存の廃棄内装材の回収ルートを活用し、内装ガラスをカーペットなどとあわせて搬出・運搬することで、効率化を図りました。さらに、中間処理業者と連携してフィルムや異物を適切に除去・選別し、AGC が板ガラス製造用カレット[*4] として受け入れることで、内装ガラスの排出から再資源化、板ガラス製造までをつなぐ水平リサイクルモデルを構築しました。今後は、当該カレットを原料の一部として製造した板ガラスを、東急不動産のテナント工事で活用することを目指します。

本取り組みにより、これまで循環利用が困難であった内装ガラスを新たな資源として有効活用し、建築用ガラスの水平リサイクルの対象を拡大しました。3 社は今後、対象物件や回収量の拡大、回収・処理工程の効率化を進め、廃棄物や天然資源使用量の削減による資源循環の推進と、CO2 排出量の削減による脱炭素への貢献を目指します。

<注釈>

[*1] 内装ガラス：オフィスや商業施設などの建物内部で、主にパーティションや間仕切りとして使用されるガラス。本リリースでは、主にテナントの移転・改装等に伴い撤去されるパーティションガラスを指します。

[*2] 2026 年 11 月時点、AGC 調べ。フィルム付きの内装ガラスを回収し、フィルム除去・カレット化を経て、建築用板ガラスの製造原料に活用する取り組みとして。

[*3] 水平リサイクル：使用済み製品を再資源化し、同種の製品原料として再利用するリサイクル。本リリースでは、内装ガラスを建築用板ガラスの製造原料の一部として循環利用することを指します。

[*4] カレット：回収したガラスを、選別・破砕・異物除去等の工程を経て、ガラスの製造原料として使用できる状態にしたもの。

【本取り組みの詳細】

1．本取り組みの概要

東急不動産が運営する「渋谷サクラステージ」および「一番町東急ビル」の原状回復工事で廃棄された内装ガラスを分別・回収し、フィルムや異物の除去・選別を経て、板ガラス製造用カレットとして再資源化しました。今後、AGC において当該カレットを製造原料の一部として使用し、2026 年 12 月から板ガラス製造を開始する予定です。なお、本取り組みは、東急不動産とＡＧＣ並びにリファインバースなどのパートナー企業で構成する「ゼロエミッション倶楽部®」[*Ⅰ] の環境施策の一環として実施するものです。

各社の主な役割は以下のとおりです。

企業	主な役割
東急不動産	運営するビルにおける工事で廃棄される内装ガラスの解体・分別・排出
リファインバース	内装ガラスの回収・運搬、中間処理業者との連携
AGC	板ガラス製造用カレットの受け入れ、建築用板ガラス製造原料としての活用

2．取り組み実績

内装ガラス回収から板ガラス製造用カレットへの再資源化までを完了。これまでの取り組み実績は以下のとおりです。

項目	実績
対象物件	**渋谷サクラステージ（対象工事１件）** **一番町東急ビル（対象工事 1 件）**
工事により廃棄された内装ガラスの回収量	**3.24t**
板ガラス製造用カレットとして再資源化した量 （廃棄物の埋立処分削減量）	**2.16t**
CO2 削減見込み量	**1.30t-CO2** **（2.16t × 0.6t-CO2/t）[*Ⅱ]**

3．各社の説明

■東急不動産株式会社

東急不動産は環境先進企業として、RE100 の認定や再エネ事業など事業に則した環境課題への取り組みを行っています。「環境で選ばれる施設」となるオフィスビルや商業施設を目指すべく、28 社のパートナー企業との廃棄物削減・再生利用等を目的とした「ゼロエミッション倶楽部®」の設立、難易度の高い既存マルチテナントビルにおける ZEB 化改修工事、屋上菜園活動を通じ交流機会創出などを行っています。またネイチャーポジティブ化を推進する「GREEN UP

＆COOL DOWN PROJECT」[*Ⅲ]に取り組んでおり、今後も様々なステークホルダーと協業しながら環境課題に向けた取り組みを推進し、共創による事業機会の拡大を図ってまいります。

今後は、建物の開発・運営・改修の各段階で発生する資源をより有効に循環させる観点から、本取り組みで得た知見を活かし、工事で廃棄される内装ガラスの分別・回収を他の物件にも展開することを検討します

公式 HP：https://www.tokyu-land.co.jp/

■リファインバース株式会社

20 年以上にわたりサーキュラーエコノミーの実践に取り組み、さまざまな素材の再生・開発を進めています。オフィスや施設で大量に廃棄されるタイルカーペットを回収し、水平循環型リサイクルを実現。廃漁網や廃車エアバッグを高品質なリサイクルナイロンペレット「REAMIDE（リアミド）」へ再生する事業や、鳥の羽根を原料としたバイオ素材「ReFEZER（リフェザー）」、自動車内装材を再生したアスファルト改質材「REOCA」、ゴムの再生素材「RENAMY」など、多様なリサイクル素材を展開しています。これらの取り組みを通じて、廃棄される素材に新たな価値を生み出し、循環型社会の実現をめざしています。

今後は、内装ガラスについても排出現場との連携や回収方法の改善を進めるとともに、中間処理業者との連携を通じて、安定的かつ効率的な回収・再資源化体制の構築に貢献します。

■AGC 株式会社

AGC グループは、バリューチェーン全体で「脱炭素社会」「資源循環社会」「自然共生社会」の構築に貢献することを環境方針に掲げ、省エネルギー、GHG 排出量削減、再生資源の活用を推進しています。板ガラス製造においては、カレット利用の拡大により天然原料の使用抑制と溶融時のエネルギー負荷低減が期待されます。今回、フィルム付きガラスについても適切な処理を経て板ガラス製造用カレットとして再資源化できる状態としたことは、建築ガラスの資源循環拡大に向けた重要な成果です。今後は、受入品質の確保と関係各社との連携を進め、使用済み建築ガラスを再び板ガラス原料として活用する水平リサイクルの定着・拡大を目指します。

＜注釈＞

[*Ⅰ] 「ゼロエミッション倶楽部®」は、東急不動産とメーカーや施工会社のパートナー企業で構成された、工事廃棄物の削減や再資源化、リサイクルを推進する協業体制です。工事廃棄物削減から、さらなる環境貢献策として廃棄物のマテリアルリサイクル・再資源化を活用したリサイクル推進と資源循環に取り組み、持続可能な循環型社会の構築と CO2 排出量削減を目標とした工事におけるサスティナブルな取り組みを目指しています。

2023 年 1 月 31 日付ニュースリリース

（https://www.tokyu-land.co.jp/news/2023/000823.html）

2026 年 3 月 30 日付ニュースリリース

（https://www.tokyu-land.co.jp/news/uploads/c4216662994d5051472800576207 3570b00ee781.pdf）

をご参照ください。

[*Ⅱ] CO2 削減量は、板ガラス製造用カレットとして再資源化したガラス量 2.16t に、カレット 1t の利用による CO2 削減効果 0.6t-CO2 を乗じて算出。

*Ⅲ「GREEN UP&COOL DOWN PROJECT」は、広域渋谷圏における生物多様性の保全や都市緑化を通じ、あらゆる人が活き活き過ごせる都市環境を目指すプロジェクトです。https://www.greenup-cooldown.jp

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社リファインバースグループ　広報担当：MAIL　pr@r-inverse.com
AGC 株式会社　広報・IR 部：お問い合わせフォーム